

ラジオコントロール・ヘリコプター技能証規程

実技試験規則

制定：1982年5月24日

改定：2014年4月 1日

一般財団法人 日本航空協会

1. この規則は、ラジオコントロール・ヘリコプター技能証規程の5. 2に定める実技試験について定める。
2. A～E級試験における共通必須事項は次のとおりとする。
 - (1) 試験に使用する模型航空機は、FAIスポーツ規定第4編模型航空機に定めるR/Cヘリコプターの条件に適合しなければならない。ただし、受験者自身により製作された模型航空機でなくてもよい。
 - (2) 受験者は、試験員からの質問に対し、正しく答えること。
 - (3) 受験者は、試験員から指示された実技を正しく実施すること。
 - (4) 受験者は、自らR/Cヘリコプター、無線機及び必要機材の点検を行い、飛行に必要な準備を行なうこと。
ただし、A級、B級については、飛行の準備から出発まで、試験員の指定、又は承認する助手1名を使用することができる。
なお、助手は機体の保持の他、A級に限りエンジンの始動及び調整を行なってもよい。
 - (5) エンジンの始動及び調整は定められたスタートボックスの中で行なうこと。
 - (6) 自ら周囲の安全を確認し出発し、安全に飛行を行ない、正常な姿勢で着陸、停止を行なうこと。
3. A級試験
 3. 1 A級試験の必須事項は次のとおりとする。
 - (1) 機体はセントラル・ヘリパッドまで手で運び、パッド中央に前方に向けて（ジャッジラインに対して90°）に置くこと。
 - (2) パイロットはセントラル・ヘリパッドから5mの定められた位置に立つこと。
 - (3) 自ら周囲の安全を確認し、出発を行なうこと。
 - (4) 受験者は次の課目を行なうこと。なお、演技時間はスタートコールから3分とする。
また、飛行演技は、全ての課目について、それぞれ5点以上の得点を得た場合を合格とする。（各課目は10点満点）

- ① セントラル・ヘリパッドから垂直にアイレベルの高度まで上昇し、2 秒間以上停止する。
 - ② アイレベルの高度を保ちながら前方 5 m の位置まで低速水平前進飛行を行い停止する。
 - ③ 前方 5 m の位置からセントラル・ヘリパッド直上まで低速水平後進飛行を行い停止する。
 - ④ 停止の状態から右または左に機種を 90° （ジャッジラインに平行）向けて停止した後、元の位置に戻って停止する。
 - ⑤ 5 秒間のホバリング後、垂直に降下してセントラル・ヘリパッドに着陸する。
- * 停止は 2 秒以上のホバリングとする。
- （5）コールは離陸のスタートと着陸のフィニッシュのみでよい。

4. B 級試験

4. 1 B 級試験の必須事項は次のとおりとする。

- （1）機体はセントラル・ヘリパッドまで手で運び、パッド中央に平行に向けて（ジャッジラインに対して平行）に置くこと。
 - （2）パイロットはセントラル・ヘリパッドから 9 m の位置にある P サークルに立つこと。
 - （3）受験者は「バーティカル・ボックス」と「旋回場周飛行及び着陸」の課目を行なうこと。なお、演技時間はスタートコールから 5 分とする。
- また、飛行演技は、全ての課目について、それぞれ 5 点以上の得点を得た場合を合格とする。（各課目は 10 点満点）

「バーティカル・ボックス」

- ① セントラル・ヘリパッドから垂直にアイレベルの高度まで上昇し、2 秒以上停止する。
 - ② アイレベルの高度を保ちながら後方 5 m（フラッグ 1 または 2）の位置まで低速水平後進飛行を行い停止する。
 - ③ アイレベルから 5 m の高度まで垂直に上昇し、停止する。
 - ④ 10 m の低速水平前進飛行を行い、フラッグ 1 または 2 の直上で停止する。
 - ⑤ 停止の状態から垂直に 5 m 降下して停止する。
 - ⑥ 5 m の低速後進飛行を行い、セントラル・ヘリパッド直上で停止の後、垂直にセントラル・ヘリパッドに着陸する。
- * 停止は 2 秒以上のホバリングとする。

「旋回場周飛行及び着陸」

- ① セントラル・ヘリパッドから風上に向かって離陸をし、高度約 20 m まで旋回しながら上昇する。
 - ② 上昇の後、センタージャッジとセントラル・ヘリパッドを結ぶセンターラインの位置まで水平飛行を行い、 180° 旋回降下をしてセントラル・ヘリパッドに進入着陸する。
 - ③ なお、セントラル・ヘリパッド手前 5 m は直線降下飛行でも良い。
- （4）コールは演技名及び演技のスタートとフィニッシュが必要である。

5. C級試験

5. 1 C級試験の必須事項は次のとおりとする。

(1) 受験者は次の課目を行なうこと。

なお、演技時間はスタートコールから7分とする。

また、飛行演技は、全ての課目について、それぞれ5点以上の得点を得た場合を合格とする。(各課目は10点満点)

① トライアングル 1

② キャンドル・ウイズ・デセンディング・フリップ (追い風・追い風)

通過飛行

③ オポジット・ツーロールズ (追い風・追い風)

通過飛行

④ オートローテーション・ウイズ・ツー・90° ターンズ (追い風・向かい風)

(2) コールは演技名及び演技のスタートとフィニッシュが必要である。

6. D級、E級試験

6. 1 D級、E級試験の必須事項は次のとおりとする。

(1) 受験者は、FAI スポーツ規定第4編模型航空機「F3C 2014年競技規定」に定められている「スケジュールP」の演技課目を全て実施する。

なお、演技時間はスタートコールから9分とする。

また、飛行演技は、全ての課目について、

- ・ D級はそれぞれ6点以上
- ・ E級はそれぞれ7点以上

の得点を得た場合を合格とする。(各課目は10点満点)

(2) コールは演技名及び演技のスタートとフィニッシュが必要である。

付則 1998年5月1日改定、施行

2000年5月1日改定、施行

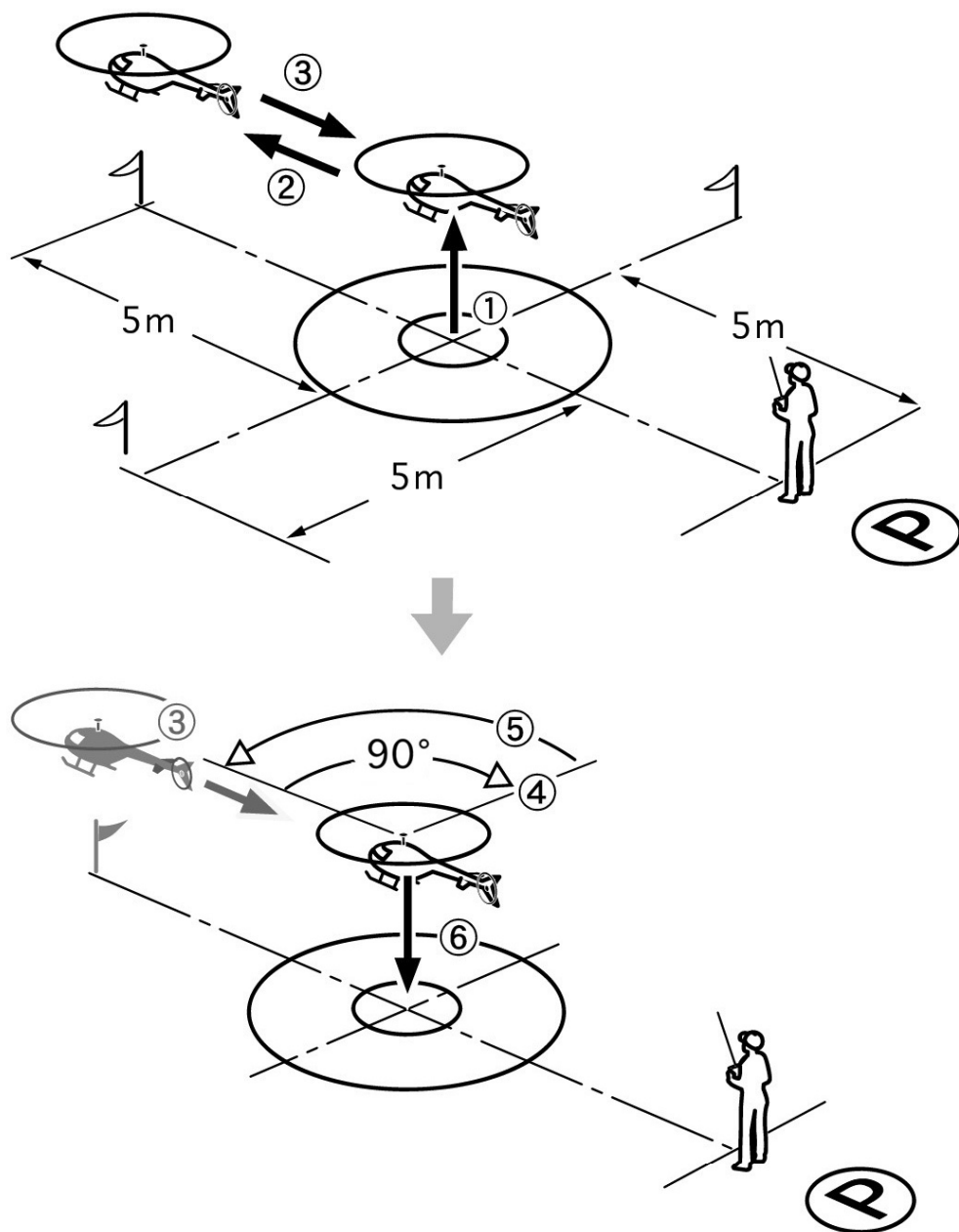
2004年9月1日改定、施行

2006年4月1日改定、施行

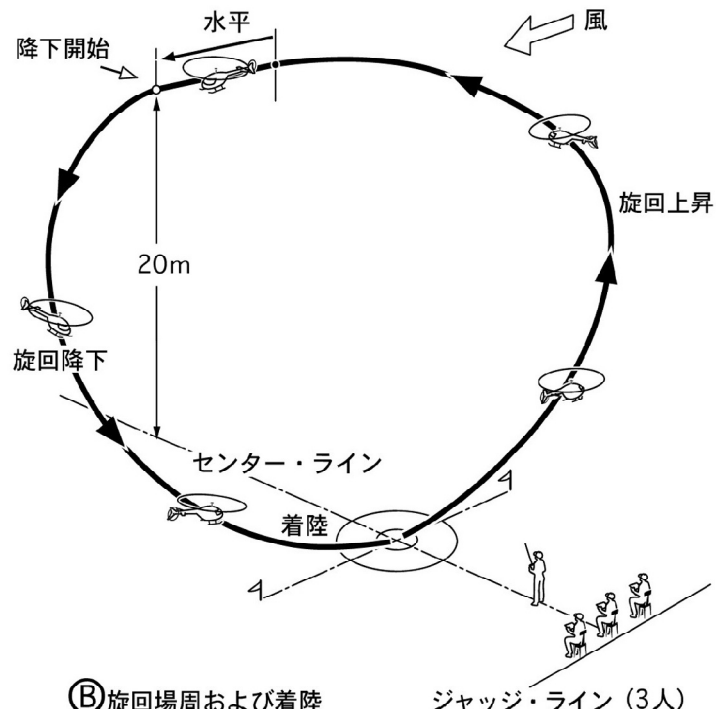
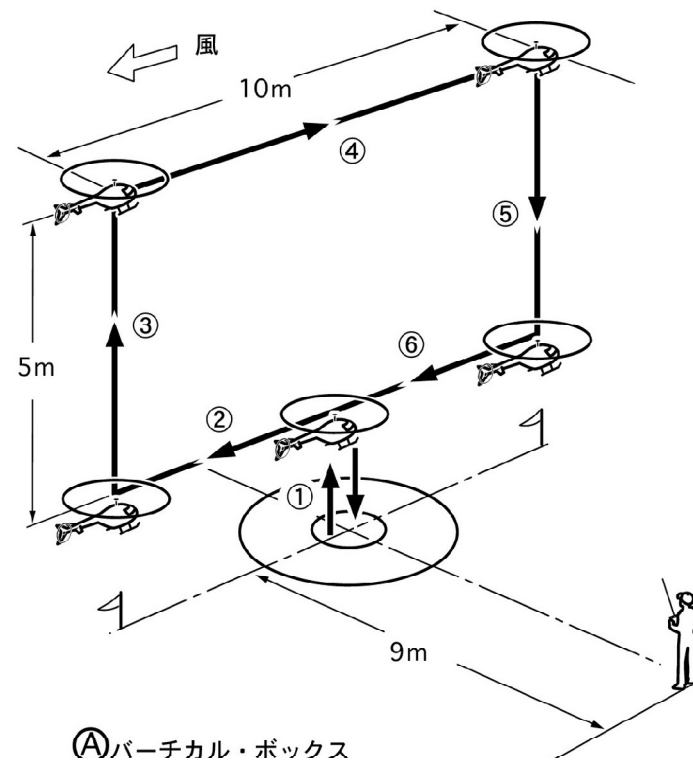
2014年4月1日改定、施行 法人格に「一般」を追記、[CDE級改定]

以上

A級



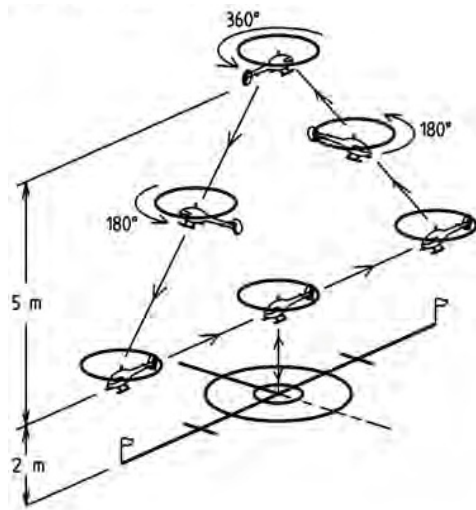
B 級



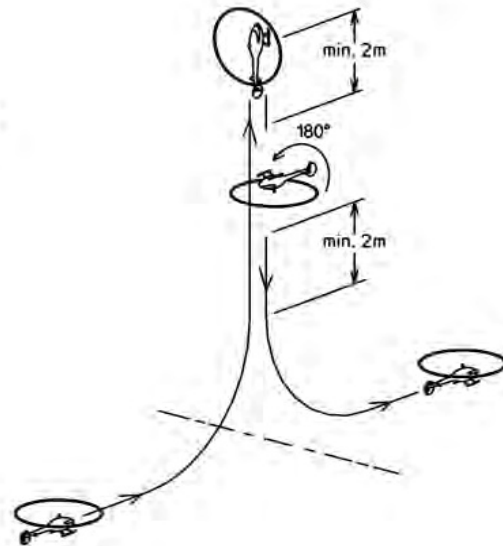
© (株) 電波実験社

C 級

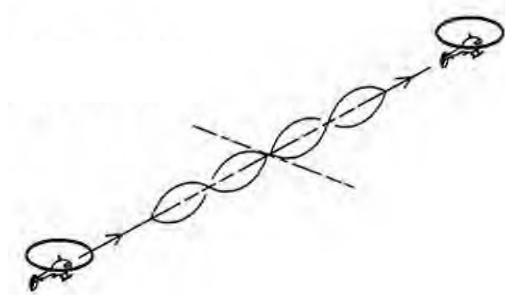
①トライアングル 1



②キャンドル・ウィズ・デセンディング
・フリップ



③オポジット・ツーロールズ



④オートローション・ウィズ
・ツー90° ターンズ

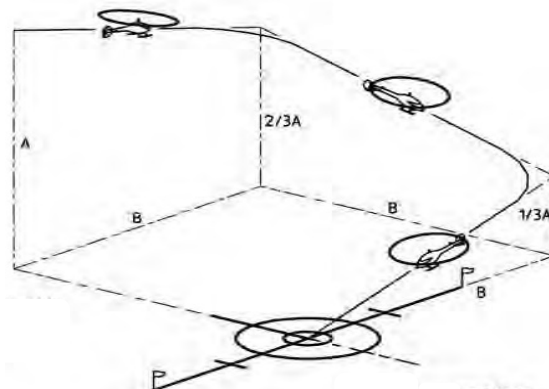
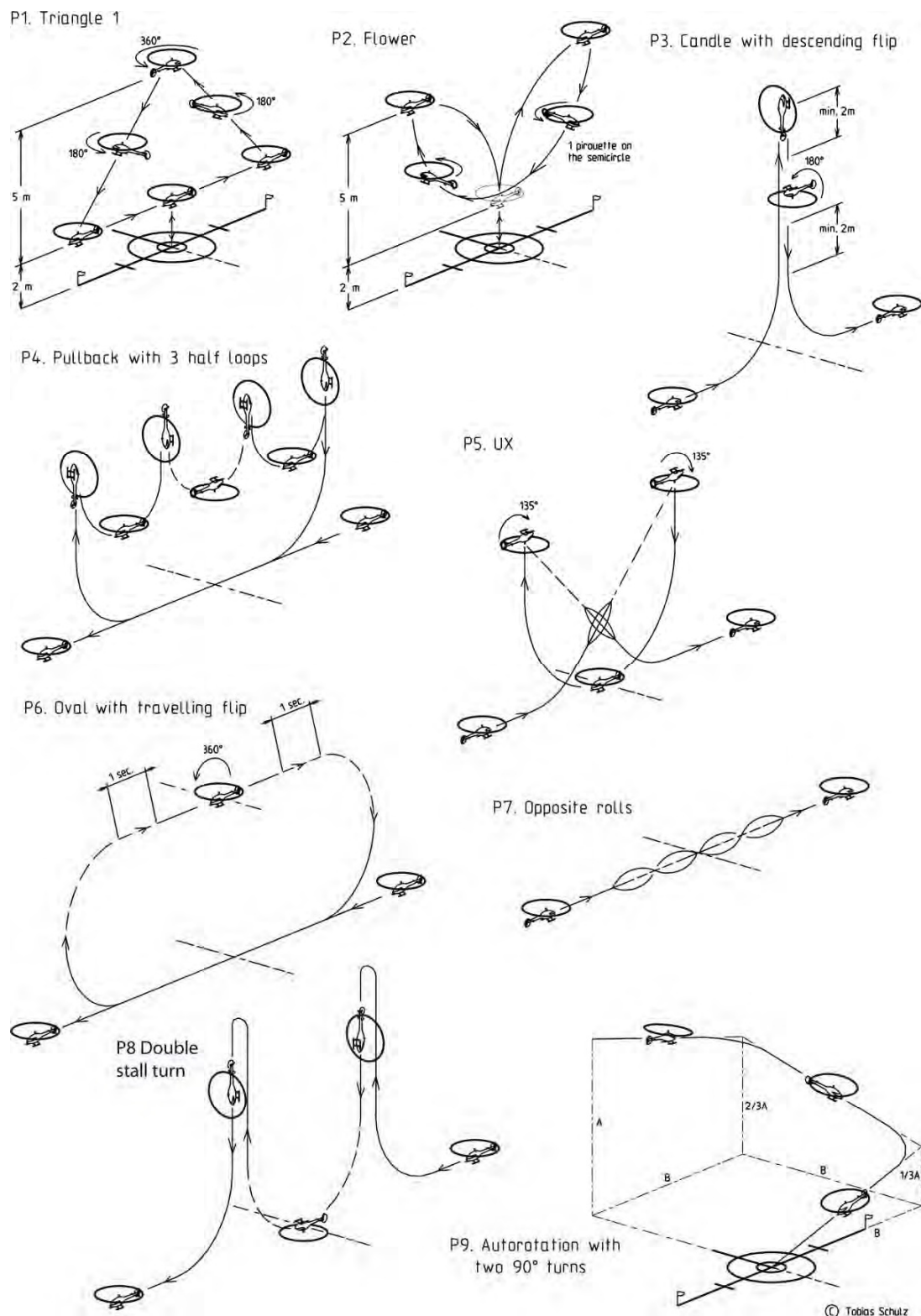


FIGURE 5D-P: F3C MANOEUVRE SCHEDULE P



© Tobias Schulz